

平成22年度研究ステーション研究成果報告書

※学科・専攻を超えた、或いは研究室の枠を超えた複数のメンバーによる組織的な研究活動について記載してください

1. 研究ステーション名 Social Informatics (社会情報学) 研究ステーション
代表者名 太田敏澄

2. 平成22年度の研究の特筆すべき成果
 - 1) 第17回社会情報システム学シンポジウムを、平成23年1月21日に開催し、特別講演として、藤村考氏 (NTTサイバーソリューション研究所、メディアコンピューティングプロジェクト、主幹研究員) より、「ソーシャルメディアのマイニングと可視化」と題する講演を戴いた。また、公募による一般セッション講演では、28件の研究発表を行い、参加者は64名であった。なお、プログラムは、
<http://www.ohta.is.uec.ac.jp/ISS/iss17-program.pdf>
に示した通りである。
 - 2) 同シンポジウムでは、オーガナイズド・セッション「社会シミュレーション」を設け、この分野における今後の共同研究について議論し、可能性を確認した。なお、座長は、寺野隆雄 (東京工業大学)、オーガナイザは、山本仁志 (立正大学) である。

3. 平成22年度の研究成果の公表実績 (主催した研究会、研究成果の発信状況等)
 - 1) 第17回社会情報システム学シンポジウムの共同主催
 - 2) 第17回社会情報システム学シンポジウム学術講演論文集 (ISSN: 1882-9473)

4. 外部資金の獲得状況
 - 1) 科研基盤研究 (B) 「ソーシャル・メディアによる組織コミュニケーションの有効性に関する研究」 (H22-H24) を獲得し、この領域における研究の展開を図った。
 - 2) 特別研究員奨励費「災害救急における脳外傷用ユーザ・インターフェイスの開発に関する研究」 (H22-H23) を獲得し、この領域における研究の展開を図った。

5. 今後の研究発展 (外部への発信、外部資金獲得計画を含む)
 - 1) HICSS45 (The Forty-Fifth Annual Hawaii International Conference on Systems Science (HICSS)) における The Digital Media: Contents and Communication Track に対し、Minitrack “Social Media in Social Informatics” を提案し、受理されたので、論文公募等を行い、研究ステーションのメンバーとともに、座長等を担当し、この Minitrack の運営を図る。
 - 2) Asia Pacific Telecommunity / Human Resource Development (APT/HRD) の公募プロジェクトに研究表題 “Emergency Broadband Access Network for Disaster Relief in Indonesia Phase-2” で応募しており、外部資金の獲得を図る。

6. 代表的なピアレビュー論文発表、学会プレナリ、招待講演発表、特許出願、受賞等

代表的なピアレビュー論文発表

- Sutiono, Agung Budi, Andri Qiantori, Hirohiko Suwa, Toshizumi Ohta, Characteristics and risk factors for typhoid fever after the tsunami, earthquake and under normal conditions in Indonesia, BMC Research Notes, 3(On Line), 2010.
- Chen, Mei-Chieh, Toshizumi Ohta, Using Blog Content Depth and Breadth to Access and Classify Blogs, International Journal of Business and Information, 5(1), 2010, 26-45.
- Ogawa, Yuki, Hitoshi Yamamoto, Isamu Okada, Hirohiko Suwa, Toshizumi Ohta, Agent-Based Model of Q&A Community for Effective Pecuniary Payback System, Proc. of WCSS2010, CD-ROM(8 pages), 2010.
- Gotoh, Shoji, Hirohiko Suwa, Toshizumi Ohta, Relations between the Purposes and the Effects of Japanese Regional Social Networking Services based on Questionnaire Survey: A Quantitative Analysis, ProMAC 2010 the 5th International Conference on Project Management, 2010, 1022-1032.
- 後藤省二, 諏訪博彦, 太田敏澄, 地域 SNS の目的と効果の関連に関する定量的分析, 日本社会情報学会学会誌, 22(2), 2011, 17-26.
- 中村浩之, 小川祐樹, 諏訪博彦, 太田敏澄, 動画のタグ情報を利用したニュースシーンの選択手法の提案, 日本社会情報学会学会誌, 22(2), 2011, 27-38.
- 佐藤智行, 小川祐樹, 諏訪博彦, 太田敏澄, アーティストネットワークを用いたインディーズアーティスト推薦システムの構築, 情報処理学会論文誌, 52(1), 2011, 44-55.
- 橋本峻平, 関良明, 諏訪博彦, 短期的な世代交代のある組織における注記事項伝承システム LEAVES, 情報処理学会論文誌, 52(1), 2011, 121-130.
- Okada, Isamu, Hitoshi Yamamoto, Effects of information diffusion in online word-of-mouth communication among consumers, JACIII, 15(2), 2011, 197-203.
- Yamamoto, Hitoshi, Isamu Okada, Vulnerability and Evolution of Cooperation in the Metanorms Game, Proc. of WCSS2010, CD-ROM, 2010.

受賞

日本社会情報学会論文奨励賞

- ・加藤菜美絵、企業内 SNS 導入における有効性に関する調査研究（加藤菜美絵、小川祐樹、諏訪博彦、太田敏澄共著）、2010 年 9 月 4 日.

日本社会情報学会研究発表賞

- ・阿部有希、インターネット株式掲示板の投稿数および投稿内容を用いたファクターモデルの構築（阿部有希、梅原英一、諏訪博彦、太田敏澄共著）、2010 年 9 月 4 日.
- ・小川祐樹、主体性の拡張を支援する推薦システムに関する研究（小川祐樹、諏訪博彦、太田敏澄共著）、2010 年 9 月 4 日
- ・中村浩之、共起タグを用いた時間変化する話題の分析（中村浩之、小川祐樹、諏訪博彦、太田敏澄共著）、2010 年 9 月 4 日.

以上